

令和5年度 第2回 図書館協議会 会議録

1 日時

令和5年11月28日（火）午後2時30分～午後4時

2 場所

ラトブ4階 いわき総合図書館学習室

3 出席者

(1) 委員

委員長 小野 順一

副委員長 柳田 明美

委員 柴田 達八、長谷部 裕美、塩 陽子、吉村 忠晴、長岡 智子
青山 岳志

（欠席者）草野 祐香利、有賀 史人

(2) 事務局

ア いわき総合図書館

武山館長、黒羽副館長、山野邊副館長、片寄主任主査、小林主任主査、
桑原総務管理係長、横田情報資料係長

イ 地区図書館

小名浜図書館長、勿来図書館長、常磐図書館長、内郷図書館副館長、
四倉図書館長

4 議事

(1) 報告事項

ア 第四期いわき市子ども読書活動推進計画の数値目標の現状について

イ 市立図書館の運営一部業務委託見直し（案）について

ウ 市街地再生整備の進捗状況について

（ア）常磐地区について

（イ）四倉地区について

エ 国内行政実務調査研修報告

オ その他

（ア）「本とふれあう」への移動図書館の出車について

（イ）読書バリアフリー計画について

（ウ）図書館事業について

－ 会議内容（司会進行：山野邊副館長） －

1 開会

（委員 10 名中 8 名が出席しており、いわき市立図書館協議会規則第 4 条第 1 項の規定による半数以上の出席があり、会議が成立した。）

2 いわき総合図書館長あいさつ 館長

3 委員長あいさつ 小野委員長

4 議事

いわき市立図書館協議会規則第 2 条第 3 項の規定により、小野委員長が議長となり、会議を進行した。

(1) 報告事項

ア 第四期いわき市子ども読書活動推進計画の数値目標の現状について

事務局より、会議資料 3 頁及び当日配布資料「第四期いわき市子ども読書活動推進計画の概要」に基づき説明した。

数値目標の現状では、「No.13 市立図書館における乳幼児・児童・生徒（0から14歳）1人当たりの児童書の貸出冊数」については、前年度比3.0冊の増加となっており、これはコロナ禍で減少した貸出冊数が回復傾向にあることが要因であること、また、「No.14 市立図書館における読み聞かせボランティア登録人数」については、前年度比5人の減少となっており、これはコロナ禍でボランティア養成講座を開催できなかったことが要因であることを説明した。（小林主任主査、堀金主事）

イ 市立図書館の運営一部業務委託見直し（案）について

事務局より、会議資料 4～6 頁に基づき説明した。

令和 6 年度から令和 9 年度までの運営一部業務委託について、これまで同様、公募型プロポーザル方式で業者を選定すること、総業務時間、委託単価、業務内容等について見直したことなどを説明した。（総務管理係長）

（意見、質疑応答）

小野委員長：総業務時間の見直しの説明のなかで、コロナ禍でセルフ貸出機の利用が伸びたとあったが、総合図書館には何台設置されているのか。

事務局：総合図書館では 11 台設置している。また、地区図書館にも 1～2 台設

置している。

ウ 市街地再生整備の進捗状況について

事務局より、別紙【資料①】、【資料②】に基づき、常磐地区及び四倉地区の進捗状況について説明した。(黒羽副館長)

(意見、質疑応答)

青山委員：移転後の跡地はどのような予定か。

事務局：跡地の利活用については未定である。

小野委員長：新しい図書館の床面積は、現在の図書館と比較してどうなるのか。

事務局：常磐図書館については、少し広くなる予定である。

吉村委員：ビジョンブックによると、移転後の常磐図書館の利用者について、親子や出張中のビジネスマン、学生、観光客とあり、ターゲットが多いように感じるが、これらのニーズに応えることは可能なのか。

事務局：今後、計画が具体化していくなかで、ターゲットも絞られていくものと考えている。

吉村委員：自分は専門が都市地理で、まちづくりなどを行っていることから関心をもっているが、図書館を核とした施設にするのか、それとも商業施設や公共施設に来た人を図書館に呼び込むのか、どういう位置づけで図書館を作っていくのか、ターゲットを明確にしておかないと中途半端なものになってしまう。「常磐ならではの図書館づくり」を意識することで、今後色々アピールできるのではないか。

エ 国内行政実務調査研修報告

事務局より、会議資料7～11頁に基づき説明した。(鈴木主事)

(意見、質疑応答)

柳田副委員長：豊橋市まちなか図書館では、飲食について一定の基準に基づいて許可しているがあったが、どのような基準なのか。

事務局：蓋つき飲み物なら館内どこでも可だったり、食べ物は2階、3階のテラス席で可といったように、エリアで区分している。

柳田副委員長：豊橋市まちなか図書館では、子ども達に人気のある「サバイバルシリー

ズ」など、館内閲覧のみの児童書もあるそうだが、とてもよい取り組みだと思った。

オ その他

(ア)「本とふれあう」への移動図書館の出車について

事務局より、会議資料 12～13 頁に基づき説明した。(情報資料係長)

(イ) 読書バリアフリー計画について

事務局より、当日配布資料に基づき説明した。(黒羽副館長)

(ウ) 図書館事業について

事務局より、当日配布資料に基づき説明した。(鈴木主事、酒井主査)

※ 議事はすべて終了したが、委員長より、各委員から意見を求める発言があった。

柴田委員: 今月、東北地区学校図書館研究大会が郡山市で開催された。本市からは、小名浜東小学校と錦小学校の2校が実践発表を行い、市立図書館からの図書貸出しの取り組みについても事例紹介されていた。現在、学校では、教科書の教材だけではなく、教科書の教材を通して得た学びを使って並行読書を行うという取り組みが主流となっており、学校の本だけでは間に合わない状況であることから、市立図書館との連携はとても有意義である。来年度は、田人中学校でも同様の取り組みを行いたい。今後も学校と市立図書館の連携が進むことを期待している。

長谷部委員: 「第四期いわき市子ども読書活動推進計画」の数値目標の現状から、依然、高校生の不読率は高い状況にあることがわかった。今後、この結果を参考に、どのような方策を図ることができるのか考えたい。

塩委員: 子どもの不読率が高くなっているとのことだが、図書館利用カードは何歳からつくれるのか。

事務局: 0歳からつくることができる。

塩委員: その子どもの読書記録を残すことができれば、その子が何に興味があるのかが分かってよいのではないか。

柳田副委員長：読み聞かせの活動を行っているが、学校などを訪問した際には、子どもたちに移動図書館って知ってる？ 図書館に行っごらん、と話している。子どもたちは本を手取る機会が減っているように感じるが、どうしたら本を届けることができるか考えている。

吉村委員：最近の調査結果では、大学の教員が学生に求める力で一番足りないものが、論理的思考力と表現力であった。教科書など、読めるが理解できない学生が多いように感じる。社会人になってからも、読んで理解して、それを言葉にしてまとめる、といった能力が必要となっている。読書についても冊数ではなく、1冊1冊をしっかりと読み込み、理解し、自分の言葉にできるような子どもたちを、小中学校のうちに育ててほしい。

長岡委員：音訳ボランティアをしている。今回、読書バリアフリー計画が策定されるとのことで、目の見えない方だけでなく、識字障がいといった文字を読むことが難しい方への対応も必要になってくることがわかった。声の奉仕グループとしても協力していきたい。

また、今回「かもまる通信」に対面朗読サービスの紹介が掲載されたことで、障がい者理解が進めばよいと感じた。

青山委員：今回の図書館協議会資料を読んで、子どもたちは意外と本を読んでいると感じた。また、読書感想文などを通して、本を読んで感じたことを文章で書く、ということも大事であると感じた。

小野委員長：「連携」というのがひとつのポイントであると感じている。例えば、図書館が外に出ていく、地域の人と連携して何かをやることで、より市民に開かれた図書館、みんなに利用してもらえる図書館になるのではないかな。現在行っている美術館等と連携した図書展示なども同様で、こういった地道な活動を通して、より利用される図書館になるのではないかな。

事務局：図書館で関わる行政計画として、「いわき市子ども読書活動推進計画」と「読書バリアフリー計画」の2つがある。

子どもの不読率については、そもそも親が読書に関心がなければ、子どもが読書に親しむ機会も少ないのではないだろうか。来年度以降は、業務委託内容の見直しに併せて、「赤ちゃんへの初めての絵本事業」実施時に

健診会場で図書館利用カードの申請受付を検討しているところである。また、移動図書館を活用したアウトリーチも進めていきたい。

小野委員長：委員の皆さまには貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。ここで議長の職を解かせていただきたいと思います。

5 その他

昨年度まで図書館協議会委員を務めた草野チエ子前委員長が、「令和5年度福島県公共図書館協会表彰」を受けたことを事務局より報告した。

6 閉会